

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和4年度病害虫防除情報第9号

ヒラズハナアザミウマについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

県内の冬春ピーマンにおけるヒラズハナアザミウマの発生が増加しています。今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ

3 発生状況（経過）

1月中旬の調査における発生面積率は83.3%（平年：56.9%、前年：58.3%）、10花当たり虫数は30.4頭（平年：8.1頭、前年：12.6頭）と、いずれも平年より多かった（図1、2）。

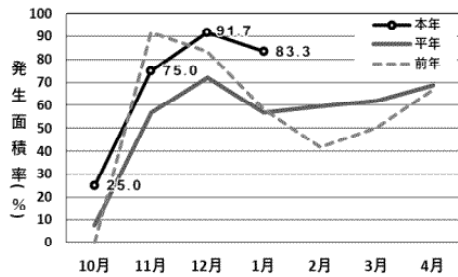


図1 発生面積率の推移

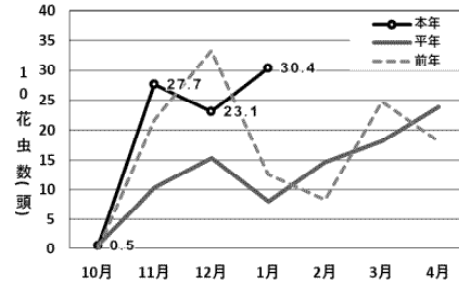


図2 10花当たり虫数の推移

4 防除上の注意

- 1) 主に花の内部に生息し（図3）、ピーマン黄化えそ病（図4）の原因となるトマト黄化えそウイルス（TSWV）を媒介するため、野外からの侵入及びハウス内での増殖を防ぐ。
- 2) 雑草は生息・増殖場所になるため、ハウス内及びハウス周辺の除草を徹底する。
- 3) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- 4) 薬剤防除は薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。また花粉が薬液をはじくことから、薬剤の付着性を高めるために、乳剤以外は展着剤を加用する。
- 5) 複数の薬剤で感受性の低下が確認されており（表1）、薬剤の効果はほ場によって異なる場合があるため、薬剤散布後は防除効果を確認し、必要に応じて適宜追加散布を行う。
- 6) 天敵を導入しているほ場では、天敵に影響の小さい剤を選定する。



図3 ヒラズハナアザミウマ成虫及び幼虫



図4 ピーマン黄化えそ病

表1 ヒラズハナアザミウマ雌成虫に対する殺虫剤の効果（2020年実施）

薬剤名	IRAC コード	検定濃度 (倍)	採集年月・場所別の補正死虫率				
			2020.5 西都市 Aほ場	2020.5 西都市 Bほ場	2020.12 国富町 Cほ場	2020.12 宮崎市 Dほ場	
			1	アーデント水和剤	3A	1000	36
2	ベストガード水溶剤	4A	1000	9	17	56	29
3	スピノエース顆粒水和剤	5	5000	6	22	94	10
4	ディアナSC		2500	17	9	97	38
5	コテツフロアブル	13	2000	86	93	100	66
6	グレーシア乳剤	30	2000	4	1	18	19
7	ファインセーブフロアブル	34	1000	0	7	1	5
8	ベネビアOD	28	2000	5	16	53	5

検定はマンジャーセル法による葉液浸漬法を用いて行い、補正死虫率はAbbottの補正式*を用いて算出した。処理72時間後の結果を記載した。

*補正死虫率={(対照生存虫率-処理生存虫率)/対照生存虫率}×100

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp